

※本文内の()内の数値は志願者数の前年度確定数との対比指数を表します。

◎志願者数が多かった大学

□志願者数最多は 5 年連続で大阪公立大
全日程で志願者数は増加、大学統合後初めて 15,000 人を上回る

大学	2026年度			2025年度			志願者 増減数	志願者指数	
	募集人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者数	志願倍率		2026年度 ／ 2025年度	2025年度 ／ 2024年度
大阪公立大	2,433	15,231	6.3	2,444	14,157	5.8	+1,074	108	99
千葉大	2,034	11,783	5.8	2,047	11,914	5.8	-131	99	110
神戸大	2,323	10,134	4.4	2,324	10,394	4.5	-260	97	102
北海道大	2,409	9,299	3.9	2,430	9,406	3.9	-107	99	99
横浜国立大	1,355	8,356	6.2	1,353	9,637	7.1	-1,281	87	112
東京大	2,960	8,329	2.8	2,960	8,421	2.8	-92	99	89
京都大	2,578	8,015	3.1	2,650	8,077	3.0	-62	99	98
大阪大	2,914	7,335	2.5	2,937	7,099	2.4	+236	103	99
東京都立大	1,087	7,166	6.6	1,085	7,866	7.2	-700	91	122
九州大	2,226	6,952	3.1	2,236	7,286	3.3	-334	95	97

上の表と右のグラフは、文部科学省発表の最終確定値で、大学全体の志願者数が多かった国公立大の上位 10 大学をまとめたものです。増加した大学は大阪公立大、大阪大の 2 大学、他の 8 大学はいずれも減少でした。

大阪大が増加により新たに上位 10 大学に入り、埼玉大が外れましたが、他の大学は前年度から入れ替わりがありませんでした。上位 3 大学の組み合わせは前年度と同一です。

2026 年度入試で志願者数が最も多かったのは、5 年連続で大阪公立大(108)でした。前年度は前期、中期、後期、全ての日程で微減でしたが、2026 年度入試では前期は 359 人(106)のやや増加、中期は 428 人(107)のやや増加、後期は 287 人(111)の増加と全ての日程で増加に転じました。その結果、大学全体の志願者数は 2022 年度の大学統合による新設後、初めて

15,000 人を上回りました。なお、統合前の大阪市立大と大阪府立大の志願者数合計との比較では、15,000 人を上回るのは 2017 年度以来 9 年ぶりとなります。

第 2 位の千葉大は、131 人(99)の微減でしたが、2010 年度から 17 年連続で志願者数が 1 万人を上回りました。前期は 53 人(101)の微増、後期は 184 人(96)のやや減少でした。

第 3 位の神戸大は、260 人(97)のやや減少でしたが、志願者数は 3 年連続で 1 万人を上回りました。前期は 279 人(95)のやや減少、後期は 19 人(100)の微増でした。

第 4 位の北海道大は 107 人(99)の微減で、3 年連続減少です。前期は 194 人(104)のやや増加だった一方、後期は 301 人(93)のやや減少でした。

第 5 位の横浜国立大は、1,281 人(87)の減少でした。前期は 548 人(85)の大幅減少、後期も 733 人(88)の減少で、前期、後期ともに全学部で減少しました。なお、後期では前年度に引き続き最も志願者数の多い大学です。

第 6 位の東京大は 92 人(99)の微減でした。文理別では、文科類が 76 人(102)の微増、理科類が 168 人(97)のやや減少でした。

第 7 位の京都大は、62 人(99)の微減でした。前期のみの募集で、5 年ぶりの減少となります。志願倍率は、募集人員も減少したため、3.0 倍→3.1 倍にアップしました。

第 8 位の大阪大は、236 人(103)のやや増加でした。前期のみの募集で、増加は 4 年ぶりです。

第 9 位の東京都立大は、700 人(91)の減少でした。前期は 693 人(87)の減少、後期は前年度約 30%の大幅増加の反動は小さく、7 人(100)の微減でした。

第 10 位の九州大は、334 人(95)のやや減少でした。前期は 287 人(94)のやや減少、後期は 47 人(98)の微減でした。

